OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	看護学生のボディイメージと学生生活が美容整形への態度に与える影響
Author(s)	末光, 琴乃; 楊, 玉春; 清水, 安子
Citation	大阪大学看護学雑誌. 2026, 32(1), p. 40-47
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/103931
rights	©大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

大阪大学看護学雑誌 Vol.32 No.1（2026）

看護学生のボディイメージと学生生活が美容整形への態度に与える影響

Impact of Body Image and Student Life on Nursing Students' Attitudes Toward Cosmetic Surgery

末光琴乃[1)]・楊玉春[2)]・清水安子[2)]

Kotono Suemitsu[1)], Yuchun Yang[2)], Yasuko Shimizu[2)]

要　旨

目的：看護学生のボディイメージおよび学生生活と美容整形に対する態度との関連を明らかにすることである。

方法：2024 年 9 月～11 月、A大学の看護学生を対象に電子データ収集システム REDCap を用いて、属性、美容整形に対する態度、ボディイメージ、学生生活に関してアンケートを実施した。従属変数を「美容整形に対する態度」の総得点および各下位尺度得点とし、独立変数を BMI、ボディイメージの下位尺度得点、学生生活に関する指標として重回帰分析を行った。有意水準は $P<.05$ とした。

結果：110 名から回答が得られ、女性 106 名（96.4%）、平均年齢は 19.9 歳、BMI の平均は 20.2kg/m²であった。美容整形に対する態度およびその下位尺度「興味関心」は、ボディイメージの下位尺度「容姿への否定的評価」と有意な正の関連を示した。授業が楽しいと思うことは、美容整形に対する態度と有意な負の関連を示した。

考察：自身のボディイメージに対する不満と授業が楽しいと思うことは、美容整形への関心に影響を与えていることが示唆された。ボディイメージについての教育や健康支援の在り方を検討する際に、背景にある学生生活の影響を踏まえて検討する必要があると考える。

キーワード：美容整形、美容医療、ボディイメージ、学生生活、看護学生

Keywords：cosmetic surgery, cosmetic medicine, body image, student life, nursing student

I. 緒言

近年、美容医療は、非侵襲的治療の普及などにより適用範囲が拡大し、SNS などを通じた情報発信の増加を背景に美容医療を受けることに対する心理的ハードルは低下してきている。その結果、美容医療に対する国民の需要は増加傾向にある。第 1 回全国美容医療実態調査（2017 年）[1)] では、全施術数は 160 万件であったが、2024 年の回収分では 305 万件に増加した[2)]。美容医療に関する現状分析[3)] では、20 代の相談件数が最も多いと示されており、若年層の美容整形への関心の高まりがうかがえる。

美容医療への関心が高まる背景には、外見に対する意識や自己評価の変化といった心理的要因が関与していると考えられる。中でも、外見に対する自己認識である「ボディイメージ」は、美容整形への関心や態度を形成する上で重要な要素とされている。ボディイメージとは、身体に関連する自己認識や自己態度、すなわち思考・信念・感情・行動を含む身体化に関する多面的な心理的体験を指す[4)]。ボディイメージは、しばしば、身体的自己の自己認識とその認識から生じる感情や思考として定義されてきた[5)]。これらの領域のいずれかに障害が生じた状態は、身体イメージに関する懸念または否定的な身体イメージと呼ばれる[6)]。美容整形に対する態度や受容度は、複数の要因に絡んでいるが、その一つがボディイメージと呼ばれる身体の認識である[7)]。先行研究によ

[1)]前大阪大学医学部保健学科、[2)] 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻

[1)] Former The University of Osaka Graduate School of Medicine, Division of Health Sciences,

[2)] The University of Osaka Graduate School of Medicine, Division of Health Sciences

れば、若年女性たちは自身の身体イメージを最も強く気にかけていることが報告されている[8]。

世界的に美容整形に対する関心が高まり、美容整形に対しての認識、受容度およびその影響要因を検討した[9]。ボディイメージと美容整形に対する態度の関連について多くの研究が行われている。海外の研究では、アラブ首長国連邦の女子大学生を対象とした調査では両者に有意な関連が認められなかったと報告されている[10]。しかし、イランの大学生を対象とした研究では、ボディイメージが美容整形手術を希望する意向を予測する因子であることが示され[11]、国・地域・文化により結果は必ずしも一貫していない。また、美容整形は女性に限らず、男性においても身体イメージ満足度の低下が美容手術への態度を予測する要因となることが報告されている[12]。さらに、文化的背景は美容整形の受容性に影響を及ぼす可能性が指摘されており[13]、美容整形の理解において文化的要因は重要であると考えられる。

日本国内の研究では、容姿への不満が美容整形に対する興味・関心と有意な弱い正の相関を示すことや[14]、自己の体型への不満足感が美容外科を肯定する意識につながる可能性が指摘されている[15]。美容整形を望む理由として「自己満足」が挙げられる一方で、他者からの評価を強く意識している可能性が示唆されており、その他に、メディア情報を見て美容整形を受けたいと思う人は35.0%であった[16]。このことから、SNSなどを中心に美容医療に関する情報が氾濫しており、若年層を中心に美容医療への関心が高まっていることが窺える。

このような社会的背景のもと、看護学生においては美容医療への関心が高いことが報告されており、ある調査では84%が美容医療に興味・関心を示していた[17]。看護学生は将来、臨床現場で身体的・心理的ケアに関わる医療専門職であることから、外見やボディイメージに対する価値観が、患者への支援に対する姿勢や関心に影響を及ぼす可能性が考えられる。外見や美容医療に対する価値観が将来のケア態度にどのように影響するかについては、先行研究が十分には蓄積されていない。これらの点を踏まえると、美容医療に対する価値観に焦点を当てて、看護学生を対象として検討することは、将来のケア実践に関わる一側面として学術的に意義があると考えられる。また、看護学生の美容整形に対する態度を理解するには、ボディイメージのような個人的・心理的要因だけでなく、学生生活の在り方や社会的経験など、日常的な環境要因にも注目する必要がある。学生生活は、仲間との関わりや学業・実習の経験、将来の職業観など、自己概念の形成に大きく影響する時期であり、こうした環境が外見意識や価値観に及ぼす影響を検討することは、看護学生への教育的・心理的支援を考える上でも重要である。

以上より本研究の目的は、看護学生のボディイメージおよび学生生活が美容整形に対する態度にどのように関連しているかを明らかにすることである。本研究の成果は、看護学生の教育および健康支援の在り方を検討する際に、ボディイメージに関する指導や支援の基盤となる示唆を提供することが期待される。

II. 研究方法

1. 用語の定義

美容整形：メスを用いる一般的な美容外科施術と注射やレーザーメスを用いないプチ整形の両者を指す。

2. 調査対象者

A大学の看護学生を対象とした。

3. サンプルサイズ計算

統計的妥当性を確保するために G*Power（version 3.1.9.7）を用いて事前にサンプルサイズを算出した。効果量は中など度（$f^2=0.15$）と設定し、検出力 0.80、有意水準 0.05、説明変数 10 を入力した結果、必要なサンプルサイズは118名と算出された。しかし、実際に収集できたデータは110名であり、事後検出力は約0.76と算出された。

4. 調査方法

2024年9月～11月に、A大学で提供されている電子データ収集システム、REDCapを用いて、オンラインアンケートを作成して研究データを収集した。QRコードを使用し協力依頼を行い、また友人などに依頼しLINEやA大学の教育に関する事柄をトータルに支援するシステムを通して調査への協力を求めて回答を得た。REDCapのサーバーやシステムへのアクセスはユーザーアカウントとパスワードによって制限され、研究データは匿名化され、厳格なアクセス制限のもとで保管された。

5. 調査内容

1）基本属性

性別･年齢･身長･体重が質問項目に含まれた。回答の重複を排除するため学籍番号を回答してもらったが、重複がないことを確認した後、学籍番号は削除した。

2）ボディイメージ

本研究では、身体外見に対する不安およびこだわりを評価する尺度として広く使用されている Body Image Concern Inventory（BICI）日本語版[18]を用いてボディイメージを測定した。BICI は身体外見に起因する心理的不安を捉える尺度である。日本語版 BICI は「容姿の問題に対する安全確保行動」（7 項目）、「容姿の問題からの回避行動」（6 項目）、「容姿の問題への否定的評価」（6 項目）の 3 つの下位尺度で構成されている。尺度全体 α = .91 であり高い内部一貫性が確認されている。項目について、「1,まったくない」「2,あまりない」「3,どちらともいえない」「4,たいていそうだ」「5,いつもそうだ」の 5 段階で評定を求めた。合計得点が高いほど身体不満足感が高いことを示している。

3）美容整形に対する態度

美容整形に対する態度を測定するために美容整形に対する態度尺度[19]を使用した。美容整形に対する態度尺度は「興味関心」（10 項目）、「肯定」（5 項目）、「任意」（7 項目）の 3 つの下位尺度で構成されている。下位尺度ごとのクロンバックの α 係数は, 興味関心 α = .93, 肯定 α = .84, 任意 α = .83 であった。各項目について「1,全くそう思わない」「2,そう思わない」「3,どちらとも言えない」「4,そう思う」「5,とてもそう思う」の５段階で回答を求めた。合計得点が高いほど美容整形に対してポジティブな態度を示す。

4）学生生活

学生生活、部活やアルバイト、趣味、大学の授業、食事、睡眠、心配事・ストレスの 7 項目について「1,全くそう思わない」「2,そう思わない」「3,どちらとも言えない」「4,そう思う」「5,とてもそう思う」の 5 段階で回答を求めた。

6. 分析方法

単純集計を行い、回答者の基本属性、学生生活を把握した。それぞれの尺度について下位尺度ごとに合計得点を算出して平均と標準偏差を求めた。次に、美容整形に対する態度を従属変数として、説明変数はボディイメージの三つの下位尺度、BMI と学生生活の実態を投入して、重回帰分析を行った。学生生活に関する 5 段階評価項目（1＝全くそう思わない～5＝全くそう思う）については、分析上の解釈を容易にするため 2 群に再分類した。具体的には、4 点（そう思う）および 5 点（全くそう思う）を選択した回答を「肯定群」、それ以外（1～3 点）を「否定群」とした。本研究のデータ分布において、4 点と 5 点が肯定的評価として集約していた。VIF は 5 以下であることを確認した。分析ソフトは JMP Pro17.2.0 を使用した。有意水準は $P < .05$ とした。

7. 倫理的配慮

参加調査票に回答の匿名性、個人情報の保護などに関する説明を記載し、参加者には研究の目的、内容、および匿名性の確保について事前に説明し、自由意思により同意を得た上で、オンライン調査に回答してもらった。また、本研究は大阪大学倫理審査委員会(承認番号 24089)により承認を受け、調査を実施した。

III. 結果

1. 参加者の属性

110 名から回答が得られ、すべてのデータを有効回答として分析した。性別に関して、女性 106 名（96.4%）、男性 3 名（2.7%）、不明 1 名であった。平均年齢は 19.9 歳（標準偏差 1.3）であり、BMI の平均は 20.2kg/m²（標準偏差 2.0）であった。

2. 学生生活

「学校生活は楽しい」と思う人は、最も高い割合（85.5%）を示した。「毎日バランスのいい食事がとれている」と思う人は、最も低い割合（41.8%）を示した。各質問項目の結果は、表 1 に示した通りである。

3. 尺度の得点に関して

本研究のサンプルにおける日本語版 BICI（Body Image Concern Inventory）の Cronbach の α は .91 であった。また、美容整形に対する態度尺度については、下位尺度ごとの Cronbach の α は、興味関心が .91、肯定が .81、任意が .53 であった。なお、任意下位尺度の Cronbach の α は .53 と他の下位尺度と比べて低く、本研究のサンプルにおいては内部一貫性が十分とはいえない値であった。美容整形に対する態度の合計得点の平均は 65.1、日本語版 BICI(Body Image

表 1.学生生活

学生生活	全くそう思わないｎ（%）	そう思わないｎ（%）	どちらとも言えないｎ（%）	そう思うｎ（%）	全くそう思うｎ（%）
学校生活は楽しい	1（0.9）	4（3.6）	11（10.0）	52（47.3）	42（38.2）
部活やアルバイトは楽しい	1（0.9）	3（2.7）	9（8.2）	44（40.0）	53（48.2）
趣味を楽しんでいる	0（0.0）	4（3.6）	14（12.7）	40（36.4）	52（47.3）
大学の授業は楽しい	4（3.6）	17（15.5）	23（20.9）	51（46.4）	15（13.6）
毎日バランスのいい食事がとれている	11（10.0）	37（33.6）	16（14.6）	31（28.2）	15（13.6）
毎日十分な睡眠がとれている	5（4.5）	9（8.2）	18（16.4）	19（17.3）	59（53.6）
心配事・ストレスがある	8（7.3）	26（23.6）	21（19.1）	34（30.9）	21（19.1）

表 2.尺度の得点

美容整形に対する態度	平均	標準偏差	四分位範囲
興味関心	27.3	9.4	20.8-35.0
肯定	18.2	3.3	17.0-20.0
任意	19.6	3.2	17.0-21.0
合計得点	65.1	10.7	57.8-73.0
日本語版 BICI(Body Image Concern Inventory)			
容姿の問題に対する安全確保行動	17.9	5.3	14.0-22.0
容姿の問題からの回避行動	19.4	5.2	16.0-24.0
容姿への否定的評価	18.5	4.7	15.8-22.0
合計得点	55.8	13.8	46.5-64.5

表 3．重回帰分析による美容整形に対する態度の予測因子

変量	t 値	標準 β（95%信頼区間）	*p*
BMI(連続変量)	-1.44	-0.12 (-1.47, 0.23)	0.15
容姿の問題に対する安全確保行動（連続変量）	1.54	0.22 (-0.13, 1.00)	0.12
容姿の問題からの回避行動（連続変量）	-0.93	-0.11 (-0.74, 0.27)	0.36
容姿への否定的評価（連続変量）	2.73	0.39 (0.24, 1.53)	**0.0075***
学校生活は楽しい（1 VS 0）	1.09	0.10 (-1.28, 4.41)	0.28
部活やアルバイトは楽しい（1 VS 0）	1.62	0.14 (-0.53, 5.26)	0.11
趣味を楽しんでいる（1 VS 0）	-0.16	-0.01 (-2.58, 2.19)	0.87
大学の授業は楽しい（1 VS 0）	-2.69	-0.24 (-4.53, -0.69)	**0.0083***
毎日バランスのいい食事がとれている（1 VS 0）	-0.22	-0.02 (-2.11, 1.69)	0.83
毎日十分な睡眠がとれている（1 VS 0）	1.26	0.11 (-0.75, 3.35)	0.21
心配事・ストレスがある（1 VS 0）	-1.56	-0.13 (-3.23, 0.38)	0.12

**p*＜0.05, R^2=0.40, Adjusted R=0.34, 1：そう思う、全くそう思う, 0：全くそう思わない、そう思わない、どちらとも言えない

表 4. 重回帰分析による美容整形に対する態度の下位尺度「興味関心」「肯定」「任意」の予測因子

	従属変数下位尺度「興味関心」			従属変数下位尺度「肯定」			従属変数下位尺度「任意」		
		R^2=0.36　Adjusted R=0.29			R^2=0.24　Adjusted R=0.16			R^2=0.18　Adjusted R=0.09	
変量	t 値	標準 β	*p*	t 値	標準 β	*p*	t 値	標準 β	*p*
		（95%信頼間）			（95%信頼区間）			（95%信頼区間）	
BMI(連続変量)	-2.25	-0.19 (-1.65, -0.10)	**0.027***	-1.10	-0.10 (-1.46, 0.13)	0.27	2.83	0.27 (0.13, 0.72)	**0.0056***
容姿の問題に対する安全確保行動（連続変量）	1.56	0.23 (-0.1, 0.92)	0.12	1.90	0.30 (-0.01, 0.39)	0.059	-1.58	-0.26 (-0.35, 0.04)	0.12
容姿の問題からの回避行動（連続変量）	-1.08	-0.14 (-0.71, 0.21)	0.28	-0.67	-0.09 (-0.23, 0.12)	0.50	0.85	0.12(-0.10, 0.25)	0.40
容姿への否定的評価（連続変量）	2.16	0.32 (0.05, 1.23)	**0.033***	0.89	0.14 (-0.13, 0.33)	0.37	1.31	0.21 (-0.08, 0.37)	0.19
学校生活は楽しい（1 VS 0）	1.08	0.11(-1.17, 4.00)	0.28	0.43	0.05 (-0.78, 1.21)	0.67	-0.13	-0.01 (-1.06, 0.93)	0.89
部活やアルバイトは楽しい（1 VS 0）	1.06	0.1 (-1.23, 4.03)	0.29	2.21	0.22(0.12, 2.15)	**0.029***	-0.34	-0.04 (-1.08, 0.83)	0.73
趣味を楽しんでいる（1 VS 0）	-0.42	-0.04(-2.62, 1.71)	0.68	0.21	0.02 (-0.75, 0.93)	0.84	0.42	0.04 (-0.65, 1.01)	0.67
大学の授業は楽しい（1 VS 0）	-2.89	-0.26 (-4.29, -0.80)	**0.0048***	-0.68	-0.06 (-0.91, 0.45)	0.50	0.49	0.05 (-0.50, 0.83)	0.63
毎日バランスのいい食事がとれている（1 VS 0）	-0.38	-0.03 (-2.06, 1.40)	0.71	0.53	0.05 (-0.49, 0.85)	0.59	-0.18	0.02 (-0.72, 0.60)	0.85
毎日十分な睡眠がとれている（1 VS 0）	0.41	0.03 (-1.47, 2.25)	0.68	0.88	0.08 (-0.40, 1.04)	0.38	1.63	-0.17(-0.12, 1.30)	0.10
心配事・ストレスがある（1 VS 0）	-1.94	-0.17 (-3.25, 0.03)	0.054	-1.31	-0.13 (-1.06, 0.21)	0.19	1.92	0.19 (-0.02, 1.24)	0.06

*p＜0.05、1：そう思う、全くそう思う, 0：全くそう思わない、そう思わない、どちらとも言えない

Concern Inventory)の合計得点の平均は 55.8 であった。下位尺度の得点は表 2 に示した通りである。

4. 重回帰分析の結果

美容整形に対する態度において、ボディイメージの下位尺度「容姿への否定的評価」と有意に正の関連を示し（β＝0.39,95%CI=0.24,1.53, *p*=.0075）、「大学の授業が楽しい」と有意に負の関連を示した（β＝-0.24, 95%CI=-4.53,-0.69, *p*=.0083）（表 3）。

美容整形に対する態度の下位尺度の「興味関心」において、ボディイメージの下位尺度「容姿への否定的評価」と有意に正の関連を示し（β＝0.32,95%CI=0.05,1.23, *p*=.033）、「大学の授業が楽しい」と有意に負の関連を示した（β＝-0.26, 95%CI=-4.29,-0.80, *p*=.0048）。BMI も美容整形態度の下位尺度の「興味関心」と有意に負の関連を示した（β＝-0.19, 95%CI=-1.65,-0.10, *p*=.027）。美容整形に対する態度の下位尺度の「肯定」において、「部活やアルバイトは楽しい」と有意な正の関連を示した（β＝0.22,95%CI=0.12,2.15, *p*=.029）。美容整形に対する態度の下位尺度「任意」は、ボディイメージの下位尺度との間に有意な関連は認められなかったが、BMI とは有意に正の関連を示した（β＝0.27, 95%CI=0.13,0.72, *p*=.0056）（表 4）。

IV. 考察

本研究の目的は、ボディイメージと学校生活が美容整形に対する態度に及ぼす影響を明らかにすることである。その結果、美容整形に対する態度の合計得点およびその下位尺度である「興味・関心」は、ボディイメージの下位尺度である「容姿への否定的評価」と有意な正の関連を示した。授業が楽しいと思う人は、美容整形に対する態度と有意に負の関連を示した。一方で、態度の下位尺度である「肯定」および「任意」については、ボディイメージの下位尺度との有意な関連は認められなかった。この結果は、看護学生における教育や健康支援において、ボディイメージに関する指導や支援を考える際の参考となる。

1. ボディイメージが美容整形への態度に与える影響

美容整形に対する態度の下位尺度の「興味関心」の質問項目は「お金があれば迷わず美容整形をする」「自分の顔や体を整形したらどうなるかシミュレーションしてみたい」など美容整形に積極的な態度を示す項目であると言える。美容整形態度の下位尺度「興味関心」において、ボディイメージの下位尺度「容姿への否定的評価」と有意に正の関連を示した。即ち、自身のボディイメージへの不満により、美容整形の実践に興味関心を示した。先行研究では、美容整形の下位尺度「興味関心」と容姿不満との間には弱い相関があるとの結果[19]に留まっていたが、本研究ではボディイメージの尺度を用いており、ボディイメージと美容整形に対する態度との関連についてより妥当な結果を得ることができたと考えられる。

また、美容整形に対する態度の下位尺度である「興味関心」において、BMI と有意な負の関連が認められ、BMI が低いほど美容整形に対する興味関心が高い傾向が示された。本研究の対象者の BMI の平均は 20.2kg/m²（標準偏差 2.0）であることと考え合わせると、標準体重を下回っていても、美しさを追い求め、美容整形に興味関心を示したと言える。ある研究[20]では、BMI が高いほど美容整形に対する興味関心が高いことが報告されているが、本研究の結果はその先行研究とは異なる傾向を示した。小学生から大学生までの女子を対象とした調査[21]において、メディアによる痩身理想の内面化が進むことでボディイメージへの不満が増大し、美容整形への関心が高まる可能性を示唆している。また、Fredrick ら[22]の調査では、低体重にもかかわらず「体重が重い」と自己評価した多くの女性が脂肪吸引手術への関心を示した。さらに、Mironica ら[23]の調査では、ソーシャルメディアが美容整形に対する認識や受容に大きな影響を及ぼすことを報告している。本研究の参加者は大学生であり、こうしたメディアの影響を受けやすい世代であると推測される。これらのことから、BMI が低い者は体型管理や美意識への関心が高く、自身が望む理想的なボディイメージに達しておらず、その結果として美容整形への関心が高まる可能性があると考えられる。

2. 学校生活が美容整形への態度に与える影響

「大学の授業が楽しい」と感じるほど、美容整形への「興味関心」が低いという有意な負の関連も認められた。このことから大学の授業が楽しいと思う人は、外見を磨くことよりも、内面を磨くことを重視しているためであると推測される。また、美容整形態度の下位尺度「肯定」において、「部活やアルバイトは楽しい」と有意に正の関連を示した。即ち、部活やアルバイトは楽しいと思う人は、美容整形を肯定的に捉えると考えられる。部活動やアルバイトを楽しいと感じる人々は、社

会的な関わりを通して他者と交流する機会が多く、その過程で客観的な認識を形成する傾向が考えられる。これらのことから、学生の授業への感じ方や社会における周囲の人々との関わりは、彼らの美容整形に対する態度に影響している可能性があると示した。

4．本研究の限界

本研究では看護学生を中心に調査協力を依頼したため、専門性や職業意識の影響が排除できない。また、本研究で用いた美容整形に対する態度の下位尺度の「任意」は、Cronbach の α が .53 と他の下位尺度と比較して低く、本研究のサンプルにおいて十分な内的一貫性が確保されているとは言い難い。そのため、当該下位尺度に基づく結果の解釈には一定の制約がある点に留意する必要がある。さらに、女性の回答者が多いため、男性の意見が十分に反映されなかった可能性がある。加えて、学生生活に関して、自作の質問項目を使って調査をしたため、学生生活を十分に反映していない可能性がある。最後に、一時点の調査であるため、因果関係の検証や時間的変化の把握には限界がある。

V．結語

本研究の目的は、看護学生のボディイメージと学生生活が美容整形に対する態度との関連を明らかにすることである。その結果は、美容整形に対する態度およびその下位尺度「興味関心」は、ボディイメージの下位尺度「容姿への否定的評価」と有意な正の関連を示した。学生生活の中で授業が楽しいと思う人は、美容整形に対する態度と有意に負の関連を示した。一方で、美容整形に対する態度の下位尺度「肯定」および「任意」については、ボディイメージの下位尺度との有意な関連は認められなかった。本研究の結果から、ボディイメージについての教育や健康支援の在り方を検討する際に、背景にある学生生活の影響を踏まえて検討する必要があると考える。

謝辞

アンケートに回答いただいた A 大学の看護学生の方々に敬意を表し、ここに感謝いたします。

利益相反

本研究に開示すべき COI はない。

文献

1) 日本美容外科学会調査委員会. (2019, February 1). 第 1 回全国美容医療実態調査最終報告書（公表用）. https://www.jsaps.com/explore/1st.html
2) 日本美容外科学会調査委員会. (2025, July 1). 第 8 回全国美容医療実態調査 報告書（公開版） [Report]. https://www.jsaps.com/explore/8th.html
3) 厚生労働省医政局. 資料 1 美容医療に関する現状について [PDF]. https://www.mhlw.go.jp/content/10803000/001363278.pdf（検索日：2025 年 11 月 4 日）
4) Cash, T. F. (2012). Cognitive-behavioral perspectives on body image. In T. F. Cash (Ed.), Encyclopedia of body image and human appearance (Vol. 1, pp. 334–342). Academic Press. https://doi.org/10.1016/B978-0-12-384925-0.00054-7
5) Cash, T. F. (2004). Body image: past, present, and future. Body Image 1, 1–5. doi: 10.1016/S1740-1445(03)00011-1
6) Ramos, P., Moreno-Maldonado, C., Moreno, C., & Rivera, F. (2019). The Role of Body Image in Internalizing Mental Health Problems in Spanish Adolescents: An Analysis According to Sex, Age, and Socioeconomic Status. *Frontiers in psychology*, *10*, 1952. https://doi.org/10.3389/fpsyg.2019.01952
7) Pearlman, R. L., Wilkerson, A. H., Cobb, E. K., Morrissette, S., Lawson, F. G., Mockbee, C. S., Humphries, L. S., Ward, K. H. M., & Nahar, V. K. (2022). Factors Associated with Likelihood to Undergo Cosmetic Surgical Procedures Among Young Adults in the United States: A Narrative Review. Clinical, cosmetic and investigational dermatology, 15, 859–877. https://doi.org/10.2147/CCID.S358573
8) Gualdi-Russo, E., Rinaldo, N., Masotti, S., Bramanti, B., & Zaccagni, L. (2022). Sex Differences in Body Image Perception and Ideals: Analysis of Possible Determinants. International journal of environmental research and public health, 19(5), 2745. https://doi.org/10.3390/ijerph19052745

9) Alotaibi A. S. (2021). Demographic and Cultural Differences in the Acceptance and Pursuit of Cosmetic Surgery: A Systematic Literature Review. Plastic and reconstructive surgery. Global open, 9(3), e3501. https://doi.org/10.1097/GOX.0000000000003501
10) Al-Bashaireh, A. M., Aljawarneh, Y., Alkouri, O., Alzoughool, F., Alhefeiti, A., Aldhuhoori, A., Al Kaabi, A., Alkaabi, A., & Alnaqbi, F. (2025). Body image and attitudes toward cosmetic surgeries among female college students in the United Arab Emirates: A cross-sectional study. Heliyon, 11(2), e42027. https://doi.org/10.1016/j.heliyon.2025.e42027
11) Kasmaei, P., Farhadi Hassankiade, R., Karimy, M., Kazemi, S., Morsali, F., & Nasollahzadeh, S. (2020). Role of Attitude, Body Image, Satisfaction and Socio-Demographic Variables in Cosmetic Surgeries of Iranian Students. World journal of plastic surgery, 9(2), 186–193. https://doi.org/10.29252/wjps.9.2.186
12) Abbas, O. L., & Karadavut, U. (2017). Analysis of the Factors Affecting Men's Attitudes Toward Cosmetic Surgery: Body Image, Media Exposure, Social Network Use, Masculine Gender Role Stress and Religious Attitudes. Aesthetic plastic surgery, 41(6), 1454–1462. https://doi.org/10.1007/s00266-017-0882-3
13) Jung, J., Hwang, C.S. Associations between attitudes toward cosmetic surgery, celebrity worship, and body image among South Korean and US female college students. Fash Text 3, 17 (2016). https://doi.org/10.1186/s40691-016-0069-6
14) 鈴木公啓（2017）：美容医療（美容整形およびプチ整形）に対する態度──経験の有無や興味の程度による比較──，東京未来大学研究紀要, 11, 119–129. Doi: https://doi.org/10.24603/tfu.11.0_119
15) 斉藤秀子 、瀬戸瑠美 、薩本弥生 、丸田直美 、呑山委佐子（2018）．化粧・補整下着・美容外科に対する意識について ―女子短大生を対象とした事例的研究―　山梨県立大学　人間福祉学部紀要，13, 1-10.
16) 谷本奈穂 （2012）．美容整形・美容医療を望む人々――自分・他者・社会との関連から――　関西大学総合情報 学部紀要「情報研究」，37，37-59.
17) 佐藤みつ子・原智子・有賀陽子・入江多津子・天野勢子・大井美樹・根本友子・小室早苗（2024）:本学の看護基礎教育に「美容医療」導入に向けての基礎調査 ―本学看護学生の「美容医療」に対する意識―,了徳寺大学研究紀要, 18, 142-154.
18) 田中勝則，有村達之，田山淳．日本語版 Body Image Concern Inventory の作成．心身医学, 51, 162-169.
19) 中山真（2023）．美容整形に対する態度尺度作成の試み　皇學館大学紀要 61(1), 151(102)-139(114).
20) Gillen, M. M., & Markey, C. H. (2021). Body image, weight management behavior, and women's interest in cosmetic surgery. Psychology, health & medicine, 26(5), 621–630. https://doi.org/10.1080/13548506.2020.1776890
21) 向井隆代, 増田めぐみ, 山宮裕子（2018）.女子におけるダイエット行動とメディアの影響 ― 小・中・高・大学生を対象とした横断的調査より ―, 青年心理学研究, 30, 41–51.
22) Frederick, D. A., Lever, J., & Peplau, L. A. (2007). Interest in cosmetic surgery and body image: views of men and women across the lifespan. Plastic and reconstructive surgery, 120(5), 1407–1415. https://doi.org/10.1097/01.prs.0000279375.26157.64
23) Mironica, A., Popescu, C. A., George, D., Tegzeșiu, A. M., & Gherman, C. D. (2024). Social Media Influence on Body Image and Cosmetic Surgery Considerations: A Systematic Review. Cureus, 16(7), e65626. https://doi.org/10.7759/cureus.65626